

56.4%，“あまり慎重に行動するほうではない”と回答した割合は、38.0%，“まったく慎重ではないと思っている”と回答した割合は、3.6%であった。分析サンプルにおいて、40名（2.0%）は無回答であった。この設問と性交経験の有無とのクロス集計表を表9に示した。このクロス集計表における $\chi^2$ 乗検定の結果は、0.1%水準で有意であった。“とてもそう思う”と回答した者における「性交経験の割合」は26.5%，“あまりそう思わない”では42.6%，“全くそう思わない”では45.7%であった。

これらの9項目と、実際の性行動との関連について検討するため、従属変数を「性交経験の有無」、独立変数をこれら9項目としたカテゴリカル回帰分析を実施した。その結果、全ての項目の標準化係数は5%水準で有意であった。性交経験の有無を予測するモデルにおいて最も寄与率の大きい変数は、「C7 異性との交際には、周囲の目が気になると感じますか」、ついで「C9 友人や異性との交際においては、慎重に行動するほうですか」、「C4 自分の身体を大切にしていますか」、「C3 性行動は相手の体や心を傷つける可能性があると思いますか」であった。これらの項目は、思春期の性行動における指標として有効であると考えられる。18歳における性行動の指標として、「性行動や異性との交際について慎重な態度を示す」あるいは、「相手や自分の身体を思いやる、大切なこと・尊重すべきことである」と考えることが重要であることが示された。

#### 「性に関する知識について」

この項目群に含まれる5項目は、性に関する知識に関するものである。5つの「性に関する記述」について、「正しい」「正しくない」「わからない」の3つの選択肢を用いて回答を求めた。

「D1. 性行動によって、病気に感染する可能性がある」という設問に対して、「正しい」と回答した割合は、94.2%、「正しくない」と回答した割合は、0.9%、「分からない」と回答した割合は、3.5%であった。分析サンプルにおいて、28名（1.4%）は無回答であった。正答は「正しい」である。正答率は、94.2%であった。この設問と性交経験の有無とのクロス集計表

を表10に示した。このクロス集計表における $\chi^2$ 乗検定の結果は、0.5%水準で有意であった。性交経験のある609名のうち、「正しい」と回答した者は595名（97.7%）、性交経験のない1221名のうち、「正しい」と回答した者は1159名（94.9%）であった。なお、この検定において、性交経験についての設問に対して無回答であったものは、分析から除外された。

「D2. 性行動によって、妊娠する可能性がある」という設問に対して、「正しい」と回答した割合は、95.5%、「正しくない」と回答した割合は、0.9%、「分からない」と回答した割合は、2.1%であった。分析サンプルにおいて、31名（1.6%）は無回答であった。正答は「正しい」である。正答率は95.5%であった。この設問と性交経験の有無とのクロス集計表を表11に示した。このクロス集計表における $\chi^2$ 乗検定の結果は、1%水準で有意であった。性交経験のある608名のうち、「正しい」と回答した者は600名（98.7%）、性交経験のない1219名のうち、「正しい」と回答した者は1175名（96.4%）であった。なお、この検定において、性交経験についての設問に対して無回答であったものは、分析から除外された。

「D3. ピルは、性感染症の予防に有効である」という設問に対して、「正しい」と回答した割合は、25.8%、「正しくない」と回答した割合は、51.8%、「分からない」と回答した割合は、20.7%であった。分析サンプルにおいて、33名（1.7%）は無回答であった。正答は「正しくない」である。正答率は51.8%であった。この設問と性交経験の有無とのクロス集計表を表12に示した。このクロス集計表における $\chi^2$ 乗検定の結果は、0.1%水準で有意であった。性交経験のある605名のうち、「正しくない」と回答した者は379名（62.6%）、性交経験のない1221名のうち、「正しくない」と回答した者は586名（48.0%）であった。なお、この検定において、性交経験についての設問に対して無回答であったものは、分析から除外された。

「D4. コンドームの使用方法によっては、性感染症の予防にならないことがある」という設問に対して、「正しい」と回答した割合は、69.6%、

「正しくない」と回答した割合は、11.5%、「分からない」と回答した割合は、17.3%であった。分析サンプルにおいて、33名(1.7%)は無回答であった。正答は「正しい」である。正答率は69.6%であった。この設問と性交経験の有無とのクロス集計表を表13に示した。このクロス集計表における $\chi^2$ 乗検定の結果は、0.5%水準で有意であった。性交経験のある606名のうち、「正しい」と回答した者は458名(75.6%)、性交経験のない1219名のうち、「正しい」と回答した者は831名(68.2%)であった。なお、この検定において、性交経験についての設問に対して無回答であったものは、分析から除外された。

「D5. 性感染症を予防するための最も効果的な方法は、「No Sex(性行動をしないこと)」である」という設問に対して、「正しい」と回答した割合は、63.3%、「正しくない」と回答した割合は、13.2%、「分からない」と回答した割合は、21.9%であった。分析サンプルにおいて、33名(1.7%)は無回答であった。正答は「正しい」である。この設問と性交経験の有無とのクロス集計表を表14に示した。このクロス集計表における $\chi^2$ 乗検定の結果は、有意ではなかった。性交経験のある608名のうち、「正しい」と回答した者は401名(66.0%)、性交経験のない1218名のうち、「正しい」と回答した者は783名(64.3%)であった。なお、この検定において、性交経験についての設問に対して無回答であったものは、分析から除外された。

#### 「性の問題に対する危機意識」

この設問群は、性の問題に対する危機意識に関する項目である。設問文に対して、「そう思う」から「そう思わない」までの4段階で回答を求めた。設問の内容によっては、「該当しない」を選択肢に加えた。

「E1. 将来、自分が性感染症に感染することがあると思いますか」という設問に対して、「そう思う」と回答した割合は、5.9%、「そう思わない」と回答した割合は、27.4%であった。分析サンプルにおいて、85名(4.3%)は無回答であった。この設問と「性交経験の有無」との関連について、 $\chi^2$ 乗検定により検討した。検

定結果は、有意であった( $p < .001$ )。性交経験のある606名のうち、「そう思う」と回答した者は63名(10.4%)、「ややそう思う」と回答した者は125名(20.6%)であった。性交経験のない1180名のうち、「そう思う」と回答した者は47名(4.0%)、「ややそう思う」と回答した者は198名(16.8%)であった。なお、この検定において、性交経験についての設問に対して無回答であったものは、分析から除外された。

「E2. 現在、自分が性感染症に感染しているかもしれないと思うことがありますか」という設問に対して「そう思う」と回答した割合は、2.4%、「そう思わない」と回答した割合は、75.3%であった。分析サンプルにおいて、96名(4.8%)は無回答であった。この設問と「性交経験の有無」との関連について、 $\chi^2$ 乗検定により検討した。検定結果は、有意であった( $p < .001$ )。性交経験のある605名のうち、「そう思う」と回答した者は26名(4.3%)、「ややそう思う」と回答した者は44名(7.3%)であった。性交経験のない1167名のうち、「そう思う」と回答した者は19名(1.6%)、「ややそう思う」と回答した者は33名(2.8%)であった。なお、この検定において、性交経験についての設問に対して無回答であったものは、分析から除外された。

「E3. 現在、自分の性行動の相手が性感染症に感染しているかもしれないと思うことがありますか」という設問に対して「そう思う」と回答した割合は、2.1%、「そう思わない」と回答した割合は、36.0%、「該当しない」と回答した割合は、46.9%であった。分析サンプルにおいて、54名(2.7%)は無回答であった。

「E4. 自分が原因でだれかに性感染症を感染させたかもしれないと思うことがありますか」という設問に対して「そう思う」と回答した割合は、2.0%、「そう思わない」と回答した割合は、40.6%、「該当しない」と回答した割合は、46.3%であった。分析サンプルにおいて、54名(2.7%)は無回答であった。

「E5. 自分の性行動の相手が原因で自分が性感染症に感染したかもしれないと思うことがありますか」という設問に対して「そう思う」と回答した割合は、2.4%、「そう思わない」と



回答した割合は、75.3%、「該当しない」と回答した割合は、47.0%であった。分析サンプルにおいて、96名(4.8%)は無回答であった。

「E6. 自分の性行動の相手の元カレ(元カノ)が性感染症に感染していたかもしれないと思うことがありますか」という設問に対して「そう思う」と回答した割合は、2.7%、「そう思わない」と回答した割合は、37.4%、「該当しない」と回答した割合は、47.3%であった。分析サンプルにおいて、52名(2.6%)は無回答であった。

「E7. 自分あるいは性行動の相手が妊娠したかもしれないと思ったことがありますか」という設問に対して「そう思う」と回答した割合は、5.2%、「そう思わない」と回答した割合は、31.4%、「該当しない」と回答した割合は、48.1%であった。分析サンプルにおいて、53名(2.7%)は無回答であった。

#### 「性行動の実際と態度について」

本分析対象における性交経験割合は、30.7%であった(無回答7.7%)。性別との関連はみられなかった(男子32.1%、女子34.6%、 $\chi^2$ 乗検定, n. s.)。なお、性別の性交経験割合においては、性交経験に関する設問に対して無回答であった者を除いている。性別の「初交時の年齢」は、男子(n=296)において $15.7 \pm 1.12$ 、女子(n=268)において $15.6 \pm 1.17$ であった。性差はみられなかった(t-test, n. s.)。「初交時の相手の年齢」は、男子(n=298)において $16.2 \pm 3.12$ 、女子(n=264)において $17.0 \pm 3.53$ であった。性差は有意であった(t-test,  $p < .05$ )。この1ヶ月間での性交回数は、男子(n=298)において $3.6 \pm 9.26$ 、女子(n=253)において $2.32 \pm 5.97$ であった。性差はみられなかった(t-test, n. s.)。過去6ヶ月間の性交人数は、男子(n=304)において $2.2 \pm 9.32$ 、女子(n=274)において $1.2 \pm 1.07$ であった。性差はみられなかった(t-test, n. s.)。また、この設問において「0人」と回答した者は男子24.0%、女子16.4%であった。

「過去6ヶ月間におけるコンドームの使用状況」に関して、「必ず(100%)」と回答した割合は、48.0%、「ほとんど(80%)」と回答した割合は、23.9%、「時々(50%)」と回答した割

割合は、9.1%、「あまり(25%)」と回答した割合は、4.6%、「全く(0%)」と回答した割合は、10.0%であった。なお、この設問は、過去6ヶ月間に性交したと回答した者のみを対象とした(n=460)。また、この設問に対し、20名(4.3%)は無回答であった。コンドームを使用した理由について4つの選択肢から複数選択方式により、回答を求めたところ、「妊娠しないように」69.3%、「エイズ、性感染症予防のため」26.1%、「相手が希望したから」5.7%、「なんとなく」4.1%であった(各項目の割合は、コンドームを使用した(「必ず」-「あまり」と回答した394名に基づく)。一方のコンドームを使用しなかった理由について6つの選択肢から複数選択方式により、回答を求めたところ、「妊娠してもよかったから」19.6%、「性感染症の危険はないと思ったから」2.2%、「相手が断ったから」4.3%、「コンドームはお金がかかるから」15.2%、「コンドームが嫌いだから」41.3%、「なんとなく」41.3%という結果であった(各項目の割合は、コンドームを使用しなかったと回答した46名に基づく)。

以下の4項目は、「性行動に対する態度」に関する項目として、性交経験の有無に関わらず、回答を求めた。

「F4. あなたは中学生が性行動をすることについてどう思いますか」という設問に対して、「性行動は、責任のとれる立場になってからすべきだ」と回答した割合は、36.4%、「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」と回答した割合は、17.8%、「中学生が性行動をするのは、時代の流れであるので仕方がない」と回答した割合は、8.9%、「性行動をするかしないかは、中学生においても個人の自由である」と回答した割合は、30.0%であった。分析サンプルにおいて、138名(6.9%)は無回答であった。

「F5. あなたは高校生が性行動をすることについてどう思いますか」という設問に対して、「性行動は、責任のとれる立場になってからすべきだ」と回答した割合は、25.3%、「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」と回答した割合は、15.1%、「高校生が性行動をするのは、時代の

流れであるので仕方がない”と回答した割合は、12.0%，“性行動をするかしないかは、高校生においても個人の自由である”と回答した割合は、40.0%であった。分析サンプルにおいて、150名(7.6%)は無回答であった。

「F6. あなた自身の性行動についてどう思いますか」という設問に対して，“性行動は、責任のとれる立場になってからするべきであるので、今はしない”と回答した割合は、33.3%，“妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、今はしない”と回答した割合は、13.5%，“高校生が性行動をするのは、時代の流れであるので、今しても構わない”と回答した割合は、9.9%，“性行動をするかしないかは、わたしの自由であるので、今しても構わない”と回答した割合は 34.1%であった。分析サンプルにおいて、183名(9.2%)は無回答であった。

「F7. あなたは性行動をするに、関心がありますか」という設問に対して，“とても関心がある”と回答した割合は、14.8%，“やや関心がある”と回答した割合は、31.3%，“あまり関心がない”と回答した割合は、32.4%，“まったく関心がない”と回答した割合は、7.4%，“嫌悪さえおぼえる”と回答した割合は、4.0%であった。分析サンプルにおいて、202名(10.2%)は無回答であった。

#### D. 考察

本研究では、＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における指標として、検討が必要であると指摘された2つの指標：「避妊方法を正確に知っている18歳の割合」「性感染症を正確に知っている高校生の割合」について、その有効性及び妥当性を検討することおよび、これらに代わる新しい指標の開発のための基礎資料を提供することを目的とした調査を行なった。

「性に関する知識」を指標とする場合，“正確な知識を有していることと性行動を控えることは正の関連がある”ことが前提となる。本研究では「性に関する知識」に関する5つの質問項目(D項目群：「D1性行動によって、病気に感染する可能性がある」「D2性行動によって、妊娠する可能性がある」「D3ピルは、性感染症の

予防に有効である」「D4コンドームの使用方法によっては、性感染症の予防にならないことがある」「D5性感染症を予防するための最も効果的な方法は、“No sex(性行動をしないこと)”である」)を用い、実際の性行動(これまでに性交をしたことがあるか、どうか)との関連について検討した。その結果、性交経験のある者は、性交経験のない者と比較して、正答の割合が高いことが示された。とくに「D3ピルは、性感染症の予防に有効である」という設問に対して「正しくない」と回答した割合は、性交経験のある者では62.6%、性交経験のない者では48.0%と14ポイントの差がみられた。また、本研究の結果から、性交経験のない者は、性交経験のある者と比較して、「わからない」と回答する割合が高いことが示唆された。これらの結果は、“性(性感染症)に関する正しい知識があることと性行動を控えることは正の関連がある”という「知識ベース」の指標モデルの前提を支持しない。本研究の結果が示唆していることは、“性行動を活発に行なう者ほど、性(性感染症)に関する正しい知識を有している”ということであると考えられる。

本研究では、従来の「性に関する正しい知識」ベースの指標に代わる「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」として9つの質問項目(C項目群：C1交際相手や友人を尊重することは大切なことだと思いますか」「C2交際相手や友人とのつきあいの中で、互いにきちんと話し合うことが大切だと思いますか」「C3性行動は相手の体や心を傷つける可能性があると思いますか」「C4自分の身体を大切にしていますか」「C5交際相手や友人の身体を大切にすることはとても重要なことだと思いますか」「C6交際相手や友人との付き合いには、確固たる“けじめ”が大切だと思いますか」「C7異性との交際には、周囲の目が気になると思いますか」「C8異性との交際には、親の目が気になると思いますか」「C9友人や異性との交際においては、慎重に行動するほうですか」)を用い、実際の性行動との関連について検討した。カテゴリカル回帰分析の結果、9項目のうち、4つの項目(C3, C4, C7, C9)において、実際の性行動との関連があるこ



とが示された。これらの4つの項目のうち、「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」という課題へ取り組み際の指標として考えた場合、「C3 性行動は相手の体や心を傷つける可能性があると思いますか」および「C4 自分の身体を大切にしていますか」の2つの項目が指標として適切であると考えられる。 $\chi^2$ 乗検定による単変量解析において、これらの2項目と実際の性行動との関連は有意であった。「C3 性行動は相手の体や心を傷つける可能性があると思いますか」という設問に対して、「かなりの確率で傷つけてしまうと思う」と回答した者において、その性交経験割合は18.3%であり、また、「全ての場合ではないが、傷つける可能性は低くないと思う」と回答した者において、その性交経験割合は30.3%であった。一方、この設問に対して、「可能性はあると思うが、特殊な場合だと思う」と回答した者における性交経験割合は41.2%であった。これらのことから、「性行動は相手の体や心を傷つける可能性があると思う」ということと実際の性行動とは、関連しており、実際の性行動に結びつく指標として「性行動は相手の体や心を傷つける可能性があると思う」は有効であると考えられる。また、同様に「C4 自分の身体を大切にしていますか」という設問に対して「いつも大切にしている」と回答した者における性交経験割合は29.9%であるのに対して、「傷つけてしまうことがたまにある」と回答した者における性交経験割合は41.8%、「よく傷つけてしまう」と回答した者における性交経験割合は44.8%であったことから、「自分の身体を大切にしている」は、

実際の性行動に結びついた指標として有効であると考えられる。

## F. 結論

本研究の結果から、従来の指標「性に関する正しい知識」は、実際の性行動と結びついた指標としては、有効でないといえる。それに代わる新たな指標「性行動による性感染症等の身体的影響について知識のある高校生の割合」として、「性行動は相手の体や心を傷つける可能性があると思う」「自分の身体を大切にしている」を検討した結果、実際の性行動との有意な関連が確認されたことから、＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における指標として活用することは有効であり、また妥当性があるといえる。

## 【参考文献】

- 1) 松浦賢長. (2007). 北九州市における性感染症関連知識・行動・意識調査報告書.
- 2) 「健やか親子 21」推進検討会. (2006). 中間評価報告書. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/03/s0316-4.html>
- 3) 「健やか親子」21の指標に関する研究会. (2007). 「健やか親子 21」指標の見直し等について. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/s0301-11.html>

表1. C1 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
c1	大切なことだと思い、いつも尊重している	度数	466	864	1330
		行の%	35.0%	65.0%	100%
		列の%	76.9%	71.1%	73.0%
	大切なことだとは思いますが、現実には尊重できないことが多い	度数	130	325	455
		行の%	28.6%	71.4%	100%
		列の%	21.5%	26.7%	25.0%
	それほど大切なことではないと思う	度数	10	26	36
		行の%	27.8%	72.2%	100%
		列の%	1.7%	2.1%	2.0%
合計	度数	606	1215	1821	
	行の%	33.3%	66.7%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表2. C2 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
c2	大切なことだと思い、いつも話し合うようにしている	度数	433	731	1164
		行の%	37.2%	62.8%	100%
		列の%	71.6%	60.3%	64.1%
	大切なことだと思うが、現実には話し合いができないことが多い	度数	159	450	609
		行の%	26.1%	73.9%	100%
		列の%	26.3%	37.1%	33.5%
	それほど大切なことではないと思う	度数	13	31	44
		行の%	29.5%	70.5%	100%
		列の%	2.1%	2.6%	2.4%
合計	度数	605	1212	1817	
	行の%	33.3%	66.7%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 3. C3 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験の有無			
		あり	なし	合計	
c3	可能性はあると思うが、特殊な場合 だと思う	度数	268	383	651
		行の%	41.2%	58.8%	100%
		列の%	44.1%	31.6%	35.8%
	全ての場ではないが、傷つける可 能性は低いと思う	度数	318	730	1048
		行の%	30.3%	69.7%	100%
		列の%	52.3%	60.3%	57.6%
	かなりの確率で傷つけてしまうと思う	度数	22	98	120
		行の%	18.3%	81.7%	100%
		列の%	3.6%	8.1%	6.6%
合計	度数	608	1211	1819	
	行の%	33.4%	66.6%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 4. C4 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験の有無			
		あり	なし	合計	
c4	いつも大切にしている	度数	393	923	1316
		行の%	29.9%	70.1%	100%
		列の%	65.0%	76.1%	72.4%
	傷つけてしまうことがたまにある	度数	182	253	435
		行の%	41.8%	58.2%	100%
		列の%	30.1%	20.9%	23.9%
	よく傷つけてしまう	度数	30	37	67
		行の%	44.8%	55.2%	100%
		列の%	5.0%	3.1%	3.7%
合計	度数	605	1213	1818	
	行の%	33.3%	66.7%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 5. C5 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
c5	とても重要なことだと思い、そうしている	度数	518	990	1508
		行の%	34.4%	65.6%	100%
		列の%	85.5%	82.4%	83.5%
	とても重要なことだと思うが、現実にはなかなか難しい	度数	81	193	274
		行の%	29.6%	70.4%	100%
		列の%	13.4%	16.1%	15.2%
	それほど重要なことではないと思う	度数	7	18	25
		行の%	28.0%	72.0%	100%
		列の%	1.2%	1.5%	1.4%
合計	度数	606	1201	1807	
	行の%	33.5%	66.5%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 6. C6 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
c6	とても大切なことだと思い、そうしている	度数	327	724	1051
		行の%	31.1%	68.9%	100%
		列の%	54.0%	60.0%	58.0%
	とても大切なことだと思うが、現実にはなかなか難しい	度数	257	452	709
		行の%	36.2%	63.8%	100%
		列の%	42.4%	37.5%	39.1%
	いまどき、けじめはそれほど大切なことではないと思う	度数	22	30	52
		行の%	42.3%	57.7%	100%
		列の%	3.6%	2.5%	2.9%
合計	度数	606	1206	1812	
	行の%	33.4%	66.6%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	



表 7. C7 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
c7	とてもそう思う	度数	126	437	563
		行の%	22.4%	77.6%	100%
		列の%	20.7%	36.0%	30.9%
	あまりそう思わない	度数	305	662	967
		行の%	31.5%	68.5%	100%
		列の%	50.2%	54.5%	53.1%
	まったくそうは思わない	度数	177	115	292
		行の%	60.6%	39.4%	100%
		列の%	29.1%	9.5%	16.0%
合計	度数	608	1214	1822	
	行の%	33.4%	66.6%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 8. C8 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験		合計	
		あり	なし		
c8	とてもそう思う	度数	175	419	594
		行の%	29.5%	70.5%	100%
		列の%	28.8%	34.6%	32.6%
	あまりそう思わない	度数	260	625	885
		行の%	29.4%	70.6%	100%
		列の%	42.8%	51.6%	48.6%
	まったくそうは思わない	度数	173	168	341
		行の%	50.7%	49.3%	100%
		列の%	28.5%	13.9%	18.7%
合計	度数	608	1212	1820	
	行の%	33.4%	66.6%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 9. C9 と性交経験の有無とのクロス集計表

		性交経験		合計	
		あり	なし		
c9	慎重に行動するほうだ	度数	278	771	1049
		行の%	26.5%	73.5%	100%
		列の%	45.7%	63.7%	57.7%
	あまり慎重に行動するほうではない	度数	298	402	700
		行の%	42.6%	57.4%	100%
		列の%	49.0%	33.2%	38.5%
	まったく慎重ではないと思っている	度数	32	38	70
		行の%	45.7%	54.3%	100%
		列の%	5.3%	3.1%	3.8%
合計	度数	608	1211	1819	
	行の%	33.4%	66.6%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 10. D1 と性交経験の有無とのクロス集計

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
d1	正しい	度数	595	1159	1754
		行の%	33.9%	66.1%	100%
		列の%	97.7%	94.9%	95.8%
	正しくない	度数	6	10	16
		行の%	37.5%	62.5%	100%
		列の%	1.0%	.8%	.9%
	わからない	度数	8	52	60
		行の%	13.3%	86.7%	100%
		列の%	1.3%	4.3%	3.3%
合計	度数	609	1221	1830	
	行の%	33.3%	66.7%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 11. D2 と性交経験の有無とのクロス集計

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
d2	正しい	度数	600	1175	1775
		行の%	33.8%	66.2%	100%
		列の%	98.7%	96.4%	97.2%
	正しくない	度数	5	12	17
		行の%	29.4%	70.6%	100%
		列の%	.8%	1.0%	.9%
	わからない	度数	3	32	35
		行の%	8.6%	91.4%	100%
		列の%	.5%	2.6%	1.9%
合計	度数	608	1219	1827	
	行の%	33.3%	66.7%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 12. D3 と性交経験の有無とのクロス集計

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
d3	正しい	度数	142	341	483
		行の%	29.4%	70.6%	100%
		列の%	23.5%	27.9%	26.5%
	正しくない	度数	379	586	965
		行の%	39.3%	60.7%	100%
		列の%	62.6%	48.0%	52.8%
	わからない	度数	84	294	378
		行の%	22.2%	77.8%	100%
		列の%	13.9%	24.1%	20.7%
合計	度数	605	1221	1826	
	行の%	33.1%	66.9%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	



表 13. D4 と性交経験の有無とのクロス集計

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
d4	正しい	度数	458	831	1289
		行の%	35.5%	64.5%	100%
		列の%	75.6%	68.2%	70.6%
	正しくない	度数	68	147	215
		行の%	31.6%	68.4%	100%
		列の%	11.2%	12.1%	11.8%
	わからない	度数	80	241	321
		行の%	24.9%	75.1%	100%
		列の%	13.2%	19.8%	17.6%
合計	度数	606	1219	1825	
	行の%	33.2%	66.8%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

表 14. D5 と性交経験の有無とのクロス集計

		性交経験の有無		合計	
		あり	なし		
d5	正しい	度数	401	783	1184
		行の%	33.9%	66.1%	100%
		列の%	66.0%	64.3%	64.8%
	正しくない	度数	92	154	246
		行の%	37.4%	62.6%	100%
		列の%	15.1%	12.6%	13.5%
	わからない	度数	115	281	396
		行の%	29.0%	71.0%	100%
		列の%	18.9%	23.1%	21.7%
合計	度数	608	1218	1826	
	行の%	33.3%	66.7%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	

## 性に関する認識・態度に関する調査

この調査の目的は、性に関する認識や態度についての現状を統計的に把握することです。この調査の結果は、「〇〇に対する知識を持つ人が何人いた」「〇〇の態度を示す人が何人いた」という全体としての数値として集計されます。集計された調査結果は、性感染症予防や家族計画に関する施策を講じる際の重要な資料となります。

ご協力いただく皆さまには、性行動に関する状況や性感染症に関する意識などについての質問にご回答いただきますが、調査票への回答記入に際して、氏名を記入いただく必要はありません。回答者個人を特定することはありませんので、率直なご回答をお願いいたします。なお、質問項目の中にどうしてもご回答いただけない項目がありましたら、何も記入いただかなくても構いません。そのことによって、あなた自身の不利益になることはありません。調査へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業  
「健やか親子 21 を推進するための母子保健情報の利活用および  
思春期やせ症防止のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究」班  
(主任研究者：山梨大学教授 山縣然太郎)

調査責任者・調査に関する問い合わせ先  
【厚生労働科学研究山梨班・分担研究者】  
福岡県立大学看護学部 教授 松浦 賢長  
〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395 番地  
TEL : 0947-42-2118 FAX : 0947-46-3722  
電子メール : matsuura@fukuoka-pu.ac.jp

A 「基本的な属性」について、以下の設問にお答えください。

A1. あなたの性別を教えてください。 1. 男性 2. 女性

A2. あなたの年齢を教えてください。 \_\_\_\_\_ 歳

A3. あなたの学年を教えてください。 高校 \_\_\_\_\_ 年

B 「性に関する相談者等」について、以下の設問にお答えください。

B1. 現在、あなたは、性感染症に関する情報をどのような方法で知りますか。

下記項目の中から該当する項目すべてに○を付けて下さい。  
どこからも情報を得ていない場合は、0に○を付けて下さい。

0. 情報はほとんど得ていない

- |           |             |             |           |
|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 1. 同性の友人  | 2. 異性の友人    | 3. 親        | 4. 学校     |
| 5. テレビ    | 6. インターネット  | 7. 一般雑誌     | 8. アダルト雑誌 |
| 9. 映画・ビデオ | 10. 漫画・コミック | 11. その他 ( ) |           |

《設問は、本用紙 1 枚の表裏、合計 4 頁にわたっています。》

1 頁

B2. あなたには、性に関する悩みや不安について相談できる人・場がありますか。  
下記の中から最も抵抗感の低い項目を1つ選んで○を付けて下さい。  
相談する人・場がない場合は、0に○を付けて下さい。

0. 相談できる人・場がない

- |                                |            |         |             |
|--------------------------------|------------|---------|-------------|
| 1. 同性の友人                       | 2. 異性の友人   | 3. 親    | 4. 学校・大学の先生 |
| 5. 学校の保健室（保健センター）              | 6. インターネット | 7. 電話相談 | 8. 医療機関     |
| 9. その他（                      ） |            |         |             |

C. 友人や異性との交際について、以下の設問にお答えください。

C1. 交際相手や友人を尊重することは、大切なことだと思いますか。（○は一つ）

1. 大切なことだと思い、いつも尊重している。
2. 大切なことだと思いが、現実には尊重できないことが多い。
3. それほど大切なことではないと思う。

C2. 交際相手や友人とのつきあいの中で、互いにきちんと話し合うことが大切だと思いますか。（○は一つ）

1. 大切なことだと思い、いつも話し合うようにしている。
2. 大切なことだと思いが、現実には話し合いができないことが多い。
3. それほど大切なことではないと思う。

C3. 性行動は相手の身体や心を傷つける可能性があると思いますか。（○は一つ）

1. 可能性はあると思うが、特殊な場合だと思う。
2. すべての場合ではないが、傷つける可能性は低くないと思う。
3. かなりの確率で傷つけてしまうことがあると思う。

C4. 自分の身体を大切にしていますか。（○は一つ）

1. いつも大切にしている。
2. 傷つけてしまうことがたまにある。
3. よく傷つけてしまう。

C5. 交際相手や友人の身体を大切にすることはとても重要なことだと思いますか。（○は一つ）

1. とても重要なことだと思い、そうしている。
2. とても重要なことだと思いが、現実にはなかなか難しい。
3. それほど重要なことではないと思う。

C6. 交際相手や友人との付き合いには、確固たる“けじめ”が大切だと思いますか。（○は一つ）

1. とても大切なことだと思い、そうしている。
2. 大切なことだと思いが、現実にはなかなか難しい。
3. いまどき、けじめはそれほど大切なことではないと思う。

C7. 異性との交際には、周囲の目が気になると思いますか。（○は一つ）

1. とてもそう思う。
2. あまりそう思わない。
3. まったくそうは思わない。

C8. 異性との交際には、親の目が気になると思いますか。（○は一つ）

1. とてもそう思う。
2. あまりそう思わない。
3. まったくそうは思わない。

C9. 友人や異性との交際においては、慎重に行動するほうですか。（○は一つ）

1. 慎重に行動するほうだ。
2. あまり慎重に行動するほうではない。
3. まったく慎重ではないと思っている。

《設問は、本用紙1枚の表裏、合計4頁にわたっています。》

2頁



D 「性に関する知識」について、以下の各問に対してお答えください。  
右側の1「正しい」、2「正しくない」、3「わからない」のどれかに○を付けてください。

	正しい	正しくない	わからない
D1. 性行動によって、病気に感染する場合がある。	1	2	3
D2. 性行動によって、妊娠する場合がある。	1	2	3
D3. ビルは、性感染症の予防に有効である。	1	2	3
D4. コンドームの使用法によっては、性感染症の予防にならないことがある。	1	2	3
D5. 性感染症を予防するための最も効果的な方法は、“No Sex（性行動をしないこと）”である。	1	2	3

ビル： Pill；避妊用女性ホルモン剤（低用量）

E 「性の問題に対する危機意識」について、以下の設問にお答えください  
以下の設問に対して、自分の意見・考えにあてはまるところ（1～4）に○を付けて下さい。なお、E3～E7については、「性行動の相手がいない」という方は「5.該当しない」に○を付けてください。

	そう思う	ややそう思う	そう思わない	あまり そう思わない	そう思わない	該当しない
E1. 将来、自分が性感染症に感染するかもしれないと思いますか	1	2	3	4	5	-
E2. 現在、自分が性感染症に感染しているかもしれないと思うことがありますか。	1	2	3	4	5	-
E3. 現在、自分の性行動の相手が性感染症に感染しているかもしれないと思うことがありますか。	1	2	3	4	5	5
E4. 自分が原因でだれかに性感染症を感染させたかもしれないと思うことがありますか。	1	2	3	4	5	5
E5. 自分の性行動の相手が原因で自分が性感染症に感染したかもしれないと思うことがありますか。	1	2	3	4	5	5
E6. 自分の性行動の相手の元カレ（元カノ）が性感染症に感染していたかもしれないと思うことがありますか。	1	2	3	4	5	5
E7. 自分あるいは性行動の相手が妊娠したかもしれないと思ったことがありますか。	1	2	3	4	5	5

F 「性行動の実際と態度」について、以下の各設問にお答えください。  
当てはまる選択肢に○をしてください。

F1. あなたには、現在、交際している異性がいますか。	1. はい	2. いいえ
F2. あなたは、これまでに性交（セックス）をしたことがありますか。	1. はい	2. いいえ

上のF2で「はい」と回答された方に質問します。

F2-1. 初めての性交時の年齢 \_\_\_\_\_ 歳

F2-2. 初めての性交時の相手の年齢 \_\_\_\_\_ 歳

F2-3. この1ヶ月間での性交の回数 \_\_\_\_\_ 回（この1ヶ月間はしていない方は“0”と記入してください）

（設問は、本用紙1枚の表裏、合計4頁にわたっています。）

3頁

F3. 過去6ヶ月間に何人と性交(セックス)をしましたか。

0. 0人      1. 1人      2. 2人      3. 3人      4. 4人以上 (      人)

上のF3で「0人」以外の回答をされた方に質問します。

F3-1. あなたは、過去6ヶ月間の性交(セックス)の時、コンドームを使用しましたか。

1. 必ず(100%)      2. ほとんど(80%)      3. 時々(50%)  
4. あまり(25%)      5. まったく(0%)

上のF3-1で「全く(0%)」以外の回答をされた方に質問します。

F3-2. コンドームを使用した理由は何ですか。(複数回答可)

1. 妊娠しないように      2. エイズ、性感染症予防のため  
3. 相手が希望したから      4. なんとなく

上のF3-1で「全く(0%)」と回答をされた方に質問します。

F3-3. コンドームを使用しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

1. 妊娠してもよかったから      2. 性感染症の危険はないと思ったから  
3. 相手が断ったから      4. コンドームはお金がかかるから  
5. コンドームが嫌いだから      6. なんとなく

F4. あなたは中学生が性行動をすることについてどう思いますか。(〇は1つ)

1. 性行動は、責任のとれる立場になってからすべきだ  
2. 妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい  
3. 中学生が性行動をするのは、時代の流れであるので仕方がない  
4. 性行動をするかしないかは、中学生においても個人の自由である

F5. あなたは高校生が性行動をすることについてどう思いますか。(〇は1つ)

1. 性行動は、責任のとれる立場になってからすべきだ  
2. 妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい  
3. 高校生が性行動をするのは、時代の流れであるので仕方がない  
4. 性行動をするかしないかは、高校生においても個人の自由である

F6. あなた自身の性行動についてどう思いますか。(〇は1つ)

1. 性行動は、責任のとれる立場になってからすべきであるので、今はしない。  
2. 妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、今はしない。  
3. 高校生が性行動をするのは、時代の流れであるので、今しても構わない。  
4. 性行動をするかしないかは、わたしの自由であるので、今しても構わない。

F7. あなたは性行動をすることに、関心がありますか。(〇は1つ)

1. とても関心がある      2. やや関心がある      3. あまり関心がない  
4. まったく関心がない      5. 嫌悪さえおぼえる

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

添付の封筒に本回答用紙を三つ折りにして入れ、シールをはがして封をしてください。



《設問は、本用紙1枚の表裏、合計4頁にわたっています。》

4頁

## 「健やか親子 21」＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞ における新たな指標のベースライン値に関する研究

樋口 善之 福岡県立大学看護学部  
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部  
山縣 然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部

本研究は、「健やか親子 21」中間評価において、指標の見直しが必要であると指摘された＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における指標：「避妊方法を正確に知っている 18 歳の割合」「性感染症を正確に知っている割合」に代わる新たな指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する 9 項目についてのベースライン値を把握することを目的とした調査を行なった。調査対象として、層別クラスター抽出法によって抽出された全国の 100 の高等学校における 3 年生の任意の 1 クラスを設定し、学校単位での自記式質問紙調査を実施し、高校 3 年生 2822 名から有効な回答を得た。調査データを集計した結果、調査項目として用いた 9 項目のうち、指標としての有効性が確認されている 2 つの項目：「C3. 性行動は相手の身体や心を傷つける可能性がありますか」「C4. 自分の身体を大切にしていますか」におけるベースライン値は次の通りとなった。「C3. 性行動は相手の身体や心を傷つける可能性があると思う」男子：63.9%、女性：68.6%。「C4. 自分の身体を大切にしている」男子：66.6%、女子：73.9%。「健やか親子 21」＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における今後の活動では、これらのベースライン値を増加傾向にすることが重要である。

### A. 研究目的

本研究は、＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における指標として、検討が必要であると指摘された 2 つの指標：「避妊方法を正確に知っている 18 歳の割合」「性感染症を正確に知っている高校生の割合」に代わる新たな指標のベースライン値を把握することを目的とした。

新たな指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する 9 項目と実際の性行動との関連について検討した結果、当該領域における指標としての有効性が確認された。そこで、本研究では、ベースライン値を把握するため、全国調査を実施した。

### B. 研究方法

#### 調査対象

全国の高等学校 6259 校から層別クラスター抽出法により、調査対象校 100 校を抽出し、

それぞれの学校における 3 年生の任意の 1 クラスを調査対象とした。調査対象校の抽出にあたっては、少なくとも 1 県 1 校となるように、18 歳人口に比例した抽出学校数を算出し、各都道府県に割り当てた。各都道府県における抽出学校数は以下の通りである。

- 1 校：秋田県、山形県、山梨県、富山県、福井県、和歌山県、鳥取県、島根県、徳島県、香川県、高知県、佐賀県、大分県、宮崎県。
- 2 校：青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、石川県、長野県、岐阜県、三重県、滋賀県、京都府、奈良県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県。
- 3 校：北海道、静岡県、兵庫県、福岡県、埼玉県。
- 4 校：千葉県、愛知県。
- 5 校：神奈川県、大阪府。
- 6 校：東京都。



入室された調査対象校における設置主体別の内訳は、公立学校 80 校（特別支援学校 3 校を含む）、私立学校 20 校となった。

#### 調査方法

上記の手続きにより抽出された各学校に調査票を郵送し、各学校単位において、無記名の自記式質問紙調査を実施した。調査票の回収にあたっては、テープによる封が可能な回収用の封筒を調査票とあわせて配布し、調査票記入後、記入者自身が封をするよう依頼した。調査票は、学校単位で回収した。なお、調査への参加にあたっては、調査票表紙に、調査の目的、調査責任者の連絡先を記し、1) 得られた情報により、個人を特定することはない、2) 調査委への参加は自由であり、不参加、未記入による不利益は生じないこと、を明記した。この調査は、2007 年 11 月～2008 年 1 月に実施された。

#### 分析対象

上記の全国 100 校の高等学校・特別支援学校に対して調査票を配布したところ、89 校 2,822 名から回答を得た。そのうち、学年が「3 学年」以外の者 (245 名)、年齢が 17-18 歳以外の者 (31 名) を分析から除外した。本調査における有効回答率は調査対象となった学校数ベースでは 88.9%であった。分析対象における性別の割合は、男子 1189 名 (47.0%)、女子 1341 名 (53.0%) であった。

#### C. 結果

この報告では、＜思春期の保健対策の強化と健康教育の推進＞における新たな指標「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」に関する 9 項目についての調査結果についてまとめる。

「C1. 交際相手や友人を尊重することは、大切なことだと思いますか」という設問に対して、“大切なことだと思います、いつも尊重している”と回答した割合は、70.9%。“大切なことだとは思いますが、現実には尊重できないことが多い”と回答した割合は、27.4%。“それほど大切なことではないと思う”と回答した割合は、1.3%であった(表 1)。分析サンプルにおいて、13 名 (0.5%) は無回答であった。この設問と

性別とのクロス集計表を表 2 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、0.5% 水準で有意であった。男性における“大切なことだと思いますいつも尊重している”と回答した割合は 68.4%、女性では 73.7%であった。

「C2. 交際相手や友人とのつきあいの中で、互いにきちんと話し合うことが大切だと思いますか」という設問に対して、“大切なことだと思います、いつも話し合うようにしている”と回答した割合は 59.4%。“大切なことだとは思いますが、現実には話し合いができないことが多い”と回答した割合は 38.5%。“それほど大切なことではないと思う”と回答した割合は 1.7%であった(表 3)。分析サンプルにおいて、16 名 (0.6%) は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 4 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、有意ではなかった。男性において“いつも話し合うようにしている”と回答した割合は 58.9%、女性では 60.2%であった。

「C3. 性行動は相手の身体や心を傷つける可能性があると思いますか」という設問に対して、“可能性はあると思うが、特殊な場合だと思う”と回答した割合は 33.4%。“すべての場合ではないが、傷つける可能性は低くないと思う”と回答した割合は、59.3%。“かなりの確率で傷つけてしまうことがあると思う”と回答した割合は、6.7%であった(表 5)。分析サンプルにおいて、16 名 (0.6%) は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 6 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、1%水準で有意であった。男性において“可能性はあるが、特殊な場合だと思う”と回答した割合は 36.1%、女性では 31.4%であった。

「C4. 自分の身体を大切にしていますか」という設問に対して、“いつも大切にしている”と回答した割合は、69.9%。“傷つけてしまうことがたまにある”と回答した割合は、25.3%。“よく傷つけてしまう”と回答した割合は、4.0%であった(表 7)。分析サンプルにおいて、20 名 (0.8%) は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 8 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、0.1%

水準で有意であった。男性において“いつも大切にしている”と回答した割合は 66.6%、女性では 73.9%であった。

「C5. 交際相手や友人の身体を大切にすることはとても重要なことだと思いますか」という設問に対して“とても重要なことだと思います”と回答した割合は、81.9%，“とても重要なことだと思うが、現実にはなかなか難しい”と回答した割合は、16.4%，“それほど重要なことではないと思う”と回答した割合は、0.9%であった（表 9）。分析サンプルにおいて、19名（0.8%）は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 10 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、0.1%水準で有意ではあった。男性において“とても重要なことだと思います、そうしている”と回答した割合は 75.7%、女性では 88.5%であった。

「C6. 交際相手や友人との付き合いには、確固たる“けじめ”が大切だと思いますか」という設問に対して、“とても大切なことだと思います、そうしている”と回答した割合は、51.2%，“大切なことだと思うが、現実にはなかなか難しい”と回答した割合は、45.0%，“いまどき、けじめはそれほど大切なことではないと思う”と回答した割合は、2.9%であった（表 11）。分析サンプルにおいて、23名（0.9%）は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 12 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、5%水準で有意であった。男性において“とても大切なことだと思います、そうしている”と回答した割合は 49.7%、女性では 53.3%であった。

「C7. 異性との交際には、周囲の目が気になると思いますか」という設問に対して“とてもそう思う”と回答した割合は、31.5%，“あまりそう思わない”と回答した割合は、53.6%，“まったくそうは思わない”と回答した割合は、13.6%であった（表 13）。分析サンプルにおいて、33名（1.3%）は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 14 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、有意ではなかった。男性において“とてもそう思う”と回答した割合は 32.4%、女性

では 31.5%であった。

「C8. 異性との交際には、親の目が気になると思いますか」という設問に対して、“とてもそう思う”と回答した割合は、34.7%，“あまりそう思わない”と回答した割合は、45.4%，“まったくそうは思わない”と回答した割合は、18.7%であった（表 15）。分析サンプルにおいて、31名（1.2%）は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 16 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、0.1%水準で有意であった。男性において“とてもそう思う”と回答した割合は 28.5%、女性では 40.9%であった。

「C9. 友人や異性との交際においては、慎重に行動するほうですか」という設問に対して、“慎重に行動するほうだ”と回答した割合は、56.4%，“あまり慎重に行動するほうではない”と回答した割合は、38.1%，“まったく慎重ではないと思っている”と回答した割合は、4.3%であった（表 17）。分析サンプルにおいて、31名（1.2%）は無回答であった。この設問と性別とのクロス集計表を表 18 に示した。このクロス集計表における  $\chi^2$  乗検定の結果は、0.1%水準で有意であった。男性において“とてもそう思う”と回答した割合は 54.0%、女性では 59.8%であった。

## D. まとめ

本研究においては新たな指標：「性行動による性感染症等の身体的影響等について知識のある高校生の割合」におけるベースライン値の把握を目的とした全国調査を行なった。その結果、調査項目として用いた 9 項目のうち、指標としての有効性が確認されている 2 つの項目：「C3. 性行動は相手の身体や心を傷つける可能性があると思いますか」「C4. 自分の身体を大切にしていますか」におけるベースライン値は以下のようにまとめられた。

「C3. 性行動は相手の身体や心を傷つける可能性があると思う」男子：63.9%、女性：68.6%。

「C4. 自分の身体を大切にしている」男子：66.6%、女子：73.9%。

＜思春期の保健対策の強化と健康教育の

推進>においては、これらの2つの指標をベースライン値より増加傾向にすることが活動の数値評価として重要である。

表1 「C1. 交際相手や友人を尊重することは、大切なことだと思いますか」における度数分布

		度数	%	有効%
有効	大切なことだと思い、いつも尊重している	1793	70.9	71.2
	大切なことだとは思いますが、現実には尊重できないことが多い	692	27.4	27.5
	それほど大切なことではないと思う	32	1.3	1.3
	有効回答 合計	2517	99.5	100
無回答		13	.5	
全体の合計		2530	100	

表2 C1と性別とのクロス集計表

		性別		合計	
		男性	女性		
c1	大切なことだと思い、いつも尊重している	度数	807	986	1793
		行の%	45.0%	55.0%	100%
		列の%	68.4%	73.7%	71.2%
	大切なことだとは思いますが、現実には尊重できないことが多い	度数	352	340	692
		行の%	50.9%	49.1%	100%
		列の%	29.8%	25.4%	27.5%
	それほど大切なことではないと思う	度数	21	11	32
		行の%	65.6%	34.4%	100%
		列の%	1.8%	.8%	1.3%
合計	度数	1180	1337	2517	
	行の%	46.9%	53.1%	100%	
	列の%	100%	100%	100%	